

第111回 定時株主総会

平成27年9月29日

株式会社 アルバック

①事業の経過及び成果



経済の状況

▶ 日本

- ◆雇用や所得環境の改善傾向が続く中、個人消費は底堅い動きを見せ、企業収益も改善に向かうなど緩やかな回復が続いてまいりました。

▶ 米国

- ◆設備投資に弱さが見られるものの個人消費が増加するなど景気の回復が続いてまいりました。

①事業の経過及び成果



経済の状況

▶ 欧州

◆ギリシャ問題や失業率、物価の動向などに留意する必要があるものの、景気は持ち直しの動きが続いてまいりました。

▶ 中国

◆個人消費や生産の伸びが低下するなど、景気は緩やかに減速してまいりました。

▶ エレクトロニクス市場

- ◆引き続きスマートフォンが市場を牽引し、それらに搭載される中小型の液晶パネルや半導体、電子部品の出荷が増加いたしました。

市場環境

▶ 液晶ディスプレイ製造装置

- ◆ 期の前半は各社の投資一巡による一服感が見られ、総じて低調に推移いたしました。後半には投資を再開する動きが出て、回復してまいりました。

▶ 自動車市場

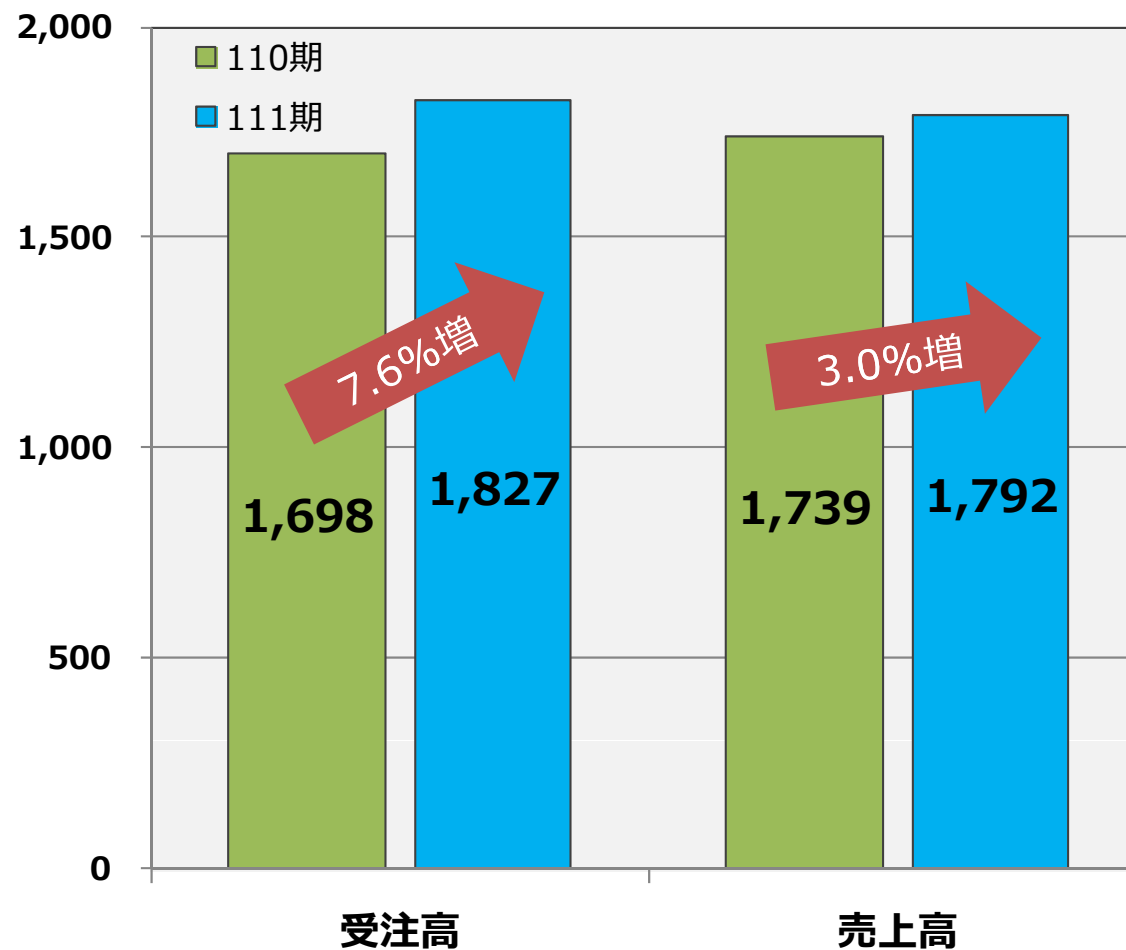
- ◆ 引き続きエコカーなどの販売が好調なことから、カーエレクトロニクス製品をはじめ自動車部品向けの設備投資が堅調に推移いたしました。

①事業の経過及び成果

第111期業績(連結)



【単位:億円】

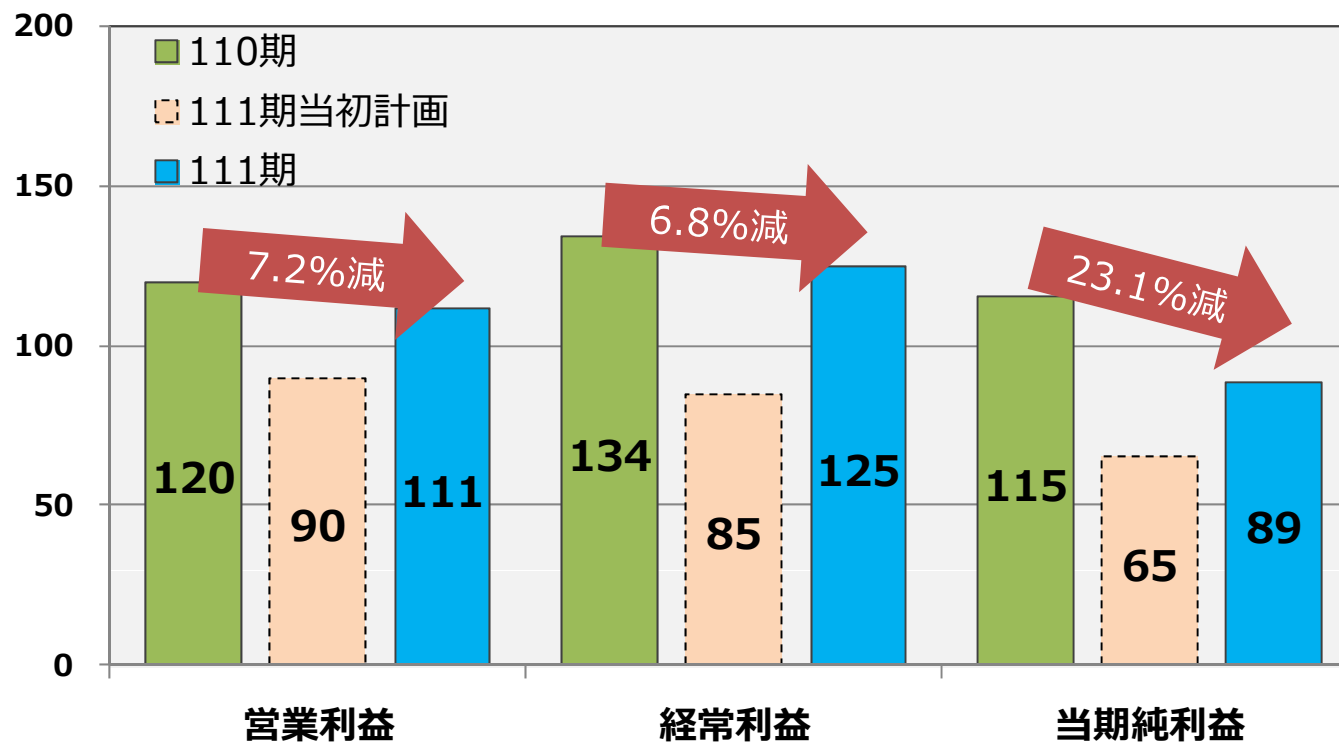


①事業の経過及び成果

第111期業績(連結)



【単位:億円】



営業利益・経常利益・当期純利益は前期に比べ減少しておりますが、当初計画を上回る結果となっております。

①事業の経過及び成果



事業セグメント別実績

【単位：億円】

事業セグメント	当期受注高		当期売上高		期末受注残高	
		前期比 (%)		前期比 (%)		前期比 (%)
真空機器事業	1,528	111.6	1,476	105.7	666	112.6
真空応用事業	300	91.1	315	92.3	64	79.3
合計	1,827	107.6	1,792	103.0	730	108.6

【百万円単位で計算後、四捨五入】

①事業の経過及び成果

真空機器事業(1)



■ FPD及びPV製造装置

▶受注高

期の後半において中小型液晶ディスプレイ製造装置の投資に回復が見られたことにより前期に比べて増加いたしました。



液晶ディスプレイ製造装置
(スパッタリング装置)

▶売上高

大型液晶ディスプレイ製造装置や有機EL製造装置が寄与いたしました。が、期の前半の受注が減少したこと等により、前期に比べて減少いたしました。



有機EL製造装置

①事業の経過及び成果

真空機器事業(2)



■ 半導体及び電子部品製造装置

- ▶ 半導体関連では、モバイルDRAM、NANDフラッシュメモリ用スパッタリング装置や自然酸化膜除去装置が寄与。
- ▶ 電子部品関連では、モバイル機器向け高機能デバイス製造装置が寄与。

受注高、売上高ともに前期に比べて増加いたしました。



半導体製造装置
(スパッタリング装置)

①事業の経過及び成果

真空機器事業(3)



■コンポーネント

- ▶ FPD、半導体、電子部品業界や自動車関連向けを中心に堅調に推移し、受注高、売上高ともに前期に比べて増加いたしました。



ドライポンプ



クライオポンプ



小型ポンプ

①事業の経過及び成果

真空機器事業(4)



■ 一般産業用装置

- ▶自動車部品製造用真空熱処理炉などを中心に、売上高は前期に比べて増加いたしました。



自動車部品用真空熱処理炉



ヘリウム
リークテスト装置



凍結真空乾燥装置

①事業の経過及び成果



事業セグメント別実績 (真空機器事業)

【単位:億円】

事業セグメント	当期受注高		当期売上高		当期営業利益		期末受注残高	
		前期比 (%)		前期比 (%)		前期比 (%)		前期比 (%)
真空機器事業	1,528	111.6	1,476	105.7	78	92.2	666	112.6
真空応用事業	300	91.1	315	92.3	32	90.3	64	79.3
合計	1,827	107.6	1,792	103.0	111	92.8	730	108.6

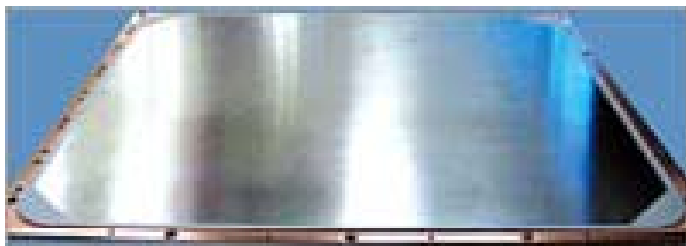
①事業の経過及び成果

真空応用事業(1)



■ 材料

- ▶主に日本、韓国などの主要パネルメーカーから液晶ディスプレイ用スパッタリングターゲット材料を受注し、受注高、売上高ともに前期に比べて増加いたしました。



液晶ディスプレイ用
スパッタリングターゲット材料



半導体用
スパッタリングターゲット材料

①事業の経過及び成果

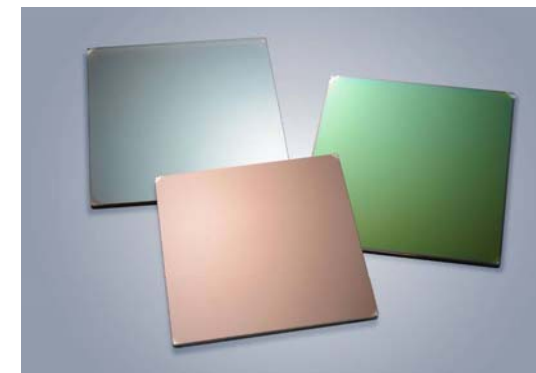
真空応用事業(2)



■ その他

▶ マスクブランクス関連

- ◆ スマートフォンやタブレット端末向け及び車載用の半導体向け需要の増加を受け、堅調に推移いたしました。



マスクブランクス

①事業の経過及び成果



事業セグメント別実績 (真空応用事業)

【単位:億円】

事業セグメント	当期受注高		当期売上高		当期営業利益		期末受注残高	
		前期比 (%)		前期比 (%)		前期比 (%)		前期比 (%)
真空機器事業	1,528	111.6	1,476	105.7	78	92.2	666	112.6
真空応用事業	300	91.1	315	92.3	32	90.3	64	79.3
合計	1,827	107.6	1,792	103.0	111	92.8	730	108.6

※受注高、受注残高、売上高とも前期に比べマイナスとなっておりますが、これは子会社の株式を売却したことにより連結決算の対象から外れたことなどによるものです。

【百万円単位で計算後、四捨五入】

②設備投資の状況(主なもの)



設備投資の総額:67億円

主な設備投資の内容	会社名
FPD及びPV製造装置、半導体及び電子部品 製造装置の評価用機械装置や研究開発用 機械装置等	(株)アルバック

③資金調達の状況



■ 資金調達

当連結会計年度は、新株式の発行等による
資金調達は行っておりません。

■ 借入金の総額

総額 826億円(前連結会計年度比70億円減)

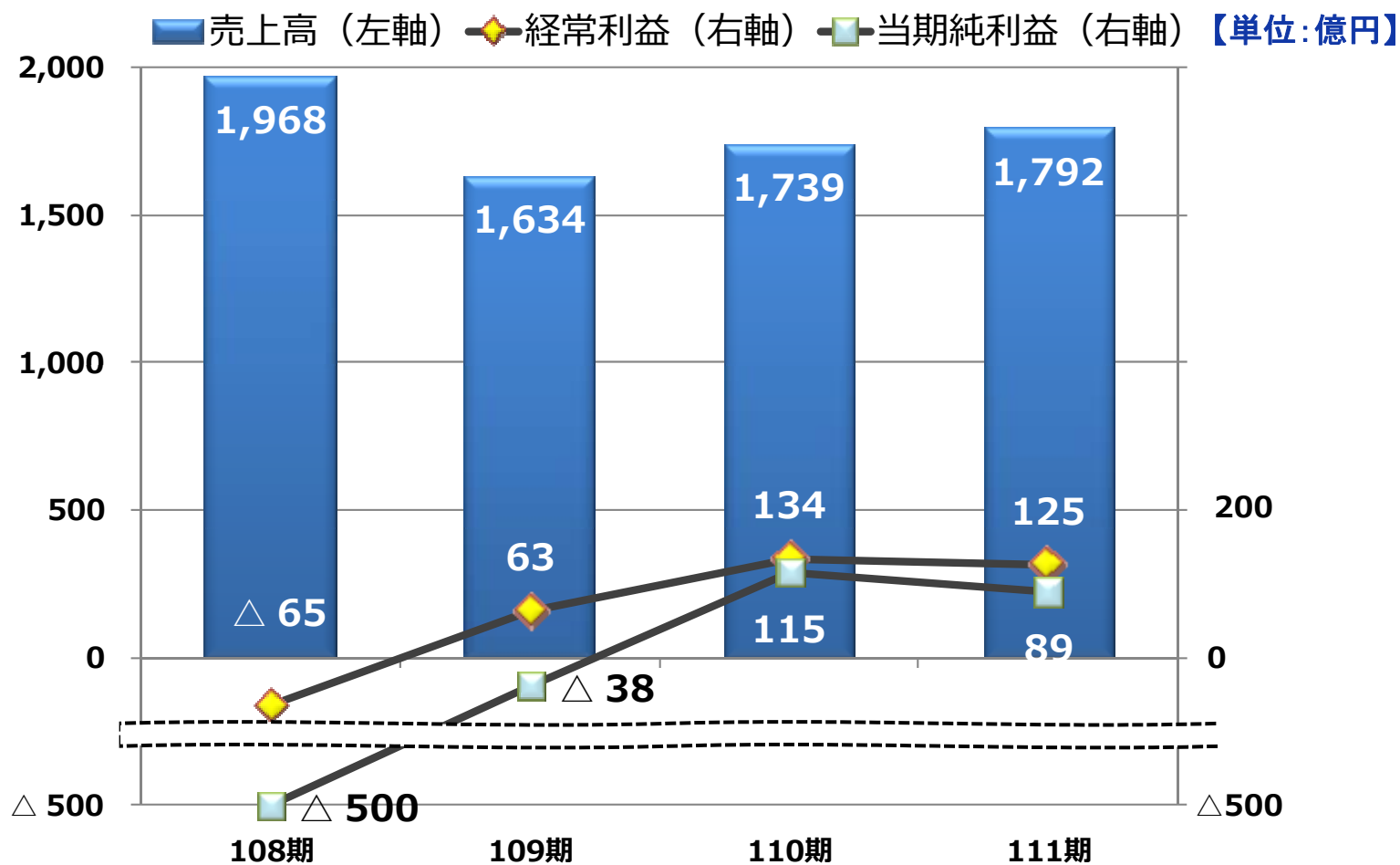
⑦他の会社の株式その他の持分または 新株予約権等の取得または処分の状況



■ 子会社の株式の譲渡

平成26年12月25日を効力発生日として、
子会社であったアルバック理工株式会社の
全株式を株式会社チノーに譲渡いたしました。

(2) 直前3事業年度の財産及び損益の状況(連結)



(4) 対処すべき課題



■ 現中期経営計画（平成26年8月策定）

▶ 基本方針

① 価値創造型ビジネスモデルの再構築

真空技術を核とした付加価値を高める仕組みの再構築

② 不採算事業の見直し

③ 損益分岐点売上高の引下げ

⇒ 確実・安定的に収益確保できる体制の確立を目指し策定

▶ 事業領域

① 「FPD及びPV製造装置」「一般産業用装置」

「コンポーネント」が継続的に下支え

② 「半導体及び電子部品製造装置」が成長を牽引

(4) 対処すべき課題

中期経営計画の見直し

■ <数値目標(連結ベース)>

【単位:億円】

	平成27年 6月期		平成28年 6月期 予想	平成29年 6月期 目標 (最終年度)
	当初予想	実績		
受注高	1,700	1,827	1,900	2,000
売上高	1,750	1,792	1,900	2,000
営業利益	90	111	135	160
営業利益率	5.1%	6.2%	7.1%	8.0%
経常利益	85	125	125	150
当期純利益 [※]	65	89	95	110

※ 平成28年6月期、平成29年6月期については、親会社株主に帰属する当期純利益

引き続き「中期経営計画」を実現するため、
「営業戦略プロジェクト」
「開発戦略プロジェクト」
「コスト管理強化プロジェクト」
を推進してまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも
引き続き格別のご理解とご支援を賜り
ますようお願い申し上げます。

連結計算書類

連結貸借対照表(資産の部)



	第110期	第111期	増減
流動資産	1,458	1,579	121
固定資産	850	844	△ 6
有形固定資産	669	657	△ 12
無形固定資産	50	46	△ 4
投資その他の資産	131	142	11
資産合計	2,308	2,423	116

【単位：億円】

【記載された金額は四捨五入しておりますので各項目の合計値が一致しない場合があります。】

資産の部：主要な変動要因

- ◆受取手形及び売掛金：103億円増加
- ◆現金及び預金：50億円増加
- ◆たな卸資産：22億円減少

連結計算書類

連結貸借対照表(負債・純資産の部)

	第110期	第111期	増減
【単位: 億円】			
(負債の部)			
流動負債	1,221	1,273	51
固定負債	364	301	△ 63
負債合計	1,586	1,574	△ 11
(純資産の部)			
純資産合計	722	849	127
負債純資産合計	2,308	2,423	116

【記載された金額は四捨五入しておりますので各項目の合計値が一致しない場合があります。】

負債の部 : 主要な変動要因

- ◆短期借入金 : 64億円減少
- ◆前受金 : 47億円増加

	第110期	第111期	増 減
売上高	1,739	1,792	+53
営業利益	120	111	△9
経常利益	134	125	△9
当期純利益	115	89	△27

【単位：億円】

貸借対照表

	第110期	第111期	増減	【単位:億円】
(資産の部)				
流動資産	811	871	60	
固定資産	730	703	△ 27	
資産合計	1,541	1,574	33	
(負債の部)				
流動負債	847	894	47	
固定負債	249	208	△ 40	
負債合計	1,096	1,103	7	
(純資産の部)				
株主資本	442	465	24	
評価・換算差額等	3	7	3	
純資産合計	445	472	27	
負債純資産合計	1,541	1,574	33	

【記載された金額は四捨五入しておりますので各項目の合計値が一致しない場合があります。】

損益計算書

	第111期	【単位：億円】
売上高	865	
営業利益	32	
経常利益	66	
当期純利益	65	

第1号議案 剰余金の処分の件

■期末配当

普通株式1株につき金10円といたしたいと存じます。

■平成28年6月期配当予想

20円増配し、1株につき30円の期末配当を
予定しております。

第2号議案 定款一部変更の件

- 発行済のA種種類株式につき、平成27年7月3日付で全株式を取得及び消却したことにともない、当社の発行する株式が普通株式のみとなったことからA種種類株式及びB種種類株式に関する規定を削除するとともに、その他所要の変更を行うものであります。
- 「会社法の一部を改正をする法律」が平成27年5月1日に施行され、新たに業務執行取締役等でない取締役及び社外監査役でない監査役との間でも責任限定契約を締結することが可能となりましたので、その期待される役割を十分に発揮できるよう、所要の変更を行うものであります。

第3号議案 取締役3名選任の件

[取締役候補者(3名)]

ぼう	あきのり	
坊	昭範	
もとよし	みつる	
本吉	光	
うちだ	のりお	
内田	憲男	※(社外取締役)

※新任取締役候補者

[非改選(5名)]

おびなた	ひさはる	
小日向	久治	
まつだい	まさすけ	
末代	政輔	
おだぎ	ひでゆき	
小田木	秀幸	
みはやし	あきら	
御林	彰	(社外取締役)
いけだ	しゅうぞう	
池田	修三	(社外取締役)

第4号議案 監査役2名選任の件

[監査役候補者(2名)]

いとう まこと
伊藤 誠 ※

あさだ せんしゅう
浅田 千秋 (社外監査役)

※新任監査役候補者

[非改選(2名)]

たかはし せいいち
高橋 誠一

おおつか かずみ
大塚 一実 (社外監査役)

第5号議案 補欠監査役1名選任の件

[補欠監査役候補者(1名)]

はら みのる
原 稔

決議事項の議案の採決

第1号議案 剰余金の処分の件

第2号議案 定款一部変更の件

第3号議案 取締役3名選任の件

第4号議案 監査役2名選任の件

第5号議案 補欠監査役1名選任の件

本日は、まことに
ありがとうございました。

ULVAC

◆ 将来見通しに関する記述についての注意事項

このプレゼンテーション資料で述べられている将来の当社に関する見通しは、現時点で知りうる情報をもとに作成されたものです。当社グループのお客様であるフラットパネルディスプレイ(FPD)・半導体・太陽電池・電子部品などの業界は技術革新のスピードが大変速く、競争の激しい業界です。

また、世界経済、為替レートの変動、FPD・半導体・電子部品・原材料などの市況、設備投資の動向など、当社グループの業績に直接的・間接的に影響を与える様々な外部要因があります。したがって、実際の売上高および利益は、このプレゼンテーション資料に記載されている予想数値とは大きく異なる可能性のあることをご承知おきください。